

第3学年 道徳科学習指導案

日 時：平成30年11月16日（金）第5校時

場 所：3年1組 教室

授業者：

- 1 主題名 広い心で
- 2 教材名 「わたしだって」
- 3 主題構成表

■ 内容項目
〔主たる内容項目〕
B 相互理解, 寛容
〔関連性のある内容項目〕
A 正直, 誠実

■ねらいの道徳的意味

- ・われわれはある事実について間違った理解や解釈をしたり, 他者の言動の真意を取り違え, その誤解によって争ったり, 対立したりしてしまう。多様な見方, 考え方があることを知り, 自分は完全ではないことを自覚し, 謙虚になれば寛容になることができる。
- ・失敗はだれにでもあると理解し, 「もしかしたら自分が失敗していたかも」と考え, 失敗した側の気持ちを想像できるならば, 相手を許すことができるようになる。
- ・自分の立場や利害で物事を判断しがちであるが, 相手の立場や心情を考えて許し合うことでよりよい人間関係が築ける。そんな関係を目指したい。

■ねらいから見た児童の実態（意識）

- ・班活動や学級遊びの中で, 腹が立ったり, 悔しかったりしても感情のままに思いをぶつかけたり, 行動したりしないように意識して行動することで, 傷つける言動が減り, 仲間と協力しながら活動することができるようになってきた。また, 仲間が分かってくれるという安心感がもてるようになり, 自分の失敗を隠したり, ごまかしたりしないで, 正直に話したり, 相手に謝ったりすることができるようになってきた。
- ・自分が被害を受けた場合に限らず, 仲間の言動をずるいと感じ, 許せなくて不満を訴えてくることもある。

■ 要因

- ・学級の仲間と仲よく, 気持ちよく生活したいと考えている児童が多く, 仲間が嫌な思いをしないように気をつけて生活しようとしている。
- ・腹が立った時に, 感情が抑えられず, 自分ばかりがづらい思いをしていると思ったとき, どうすればよいかは分かっているが, 相手の立場や思いを考えてその場で許すことが難しい。

■教材の分析

- ・図工の時間, 最後の仕上げの段階で修がぶつかり, 大切な作品を汚されてしまったけい子。何度も謝られ, さらに仲間から「許してあげなよ」の声にうなずいたものの, 心から許せずスッキリしない気持ちや許したいけれど何も言えなかった気持ちに気づくことができる。弱さに共感して, 主人公の葛藤や許すことの難しさについても考えることができる。
- ・けい子は, 走ってトイレに行った時にお姉さんとぶつかり, お姉さんの服にジュースをかけてしまう。悪いのはけい子の方なのに「ごめんね」と謝るお姉さん。2人の行動を比較し, 失敗した側の申し訳なき, 謝ることしかできないつらさ, 許してもらえた安堵感を想像することで, 相手の気持ちを考えて許すことが人間関係をよりよくするために大切であることを理解することができる。

■ねらい

◎誰でも失敗することがあり, 失敗をした時に許してもらえると安堵することに気づき, 相手の立場に立って考え, 相手の失敗を許す寛容のよさについて考えることができる。

【理解, 判断力】 失敗はだれにでもあるから, 許す心も必要であることが分かる。

【心 情】 お姉さんの他者に対する寛容な気持ちに共感する。

■展開の構想

- ・けい子の相手の失敗を許せない気持ちに共感する。
- ・お姉さんの広い心と比較することで, 相手の立場を考えられる寛容のよさに気づくことができる。

■基本発問

○ずっとだまっただまのけい子はどんなことを考えていただろう。

◎けい子とお姉さんのちがいは何だろう。

■他の教育活動との関連

- ・日常生活で, 失敗を許したり, 相手の立場や気持ちを考えて行動したりしたよい姿を紹介し, 広める。(朝の会, 帰りの会, 授業, 学級遊び, 大縄跳びなど)

過程	学習活動（主な発問と予想される児童の反応）	指導上の留意点
導入	1. 主人公と同じような経験を想起する。 ○友だちにされたことが許せなくていやな気持ちになったことはありますか。 ・腹が立ってちくちく言葉を言った。	・嫌な思いをした経験を思い返すことで、けい子の気持ちに共感して考えられるようにする。 【自分との対話】
展開前段	2. 資料「わたしだって」を読み、話し合う。 ○思ったことや話し合いたいことを発表しましょう。 ・お姉さんはけい子に怒らなくてやさしい。 ・お姉さんは「ごめんね。」って言ってすごい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">けい子とお姉さんのちがいて何だろう。</div> ○ずっとだまっただまのけい子はどんなことを考えていたのだろう。 ・修さんのせいで絵が汚された、ひどい。許せない。 ・直せるかな。困った、どうしよう。 ・許した方がいいけれど、腹が立ってできない。 ・みんなにいろいろ言われたから何も言えなくなった。 ・わざとじゃないから、ぶつかったのは仕方ない。 ・悪いと思って謝ってくれた。けれど…。	・相手を許すにはどうしたらよいかを考えるために、お姉さんとけい子との違い(お姉さんのすごさ)について考える。 【教材との対話】 ・友だちの失敗を許したいが、許せなくて葛藤する心情に共感し、許すことの難しさを感じる。 ・補助発問として「こんな経験はあるか」と経験を聞いたり、「もしけい子だったら許せない」と担任が意見を言ったりすることで、自分に引き寄せて考え、主人公の気持ちに共感できるようにしたい。 【仲間との対話】
展開後段	◎けい子とお姉さんのちがいは何だろう。 ・ぶつかってきた相手が悪いのに先に相手に謝っている。 ・すぐに許している。 ・「だいじょうぶ」と相手の心配をしている。 ・悪いことをしてしまったと思った時に許してもらえるとほっとする。怒られたらどうしていいかわからない。 ・お姉さんは自分のことよりも失敗した人の気持ちを考えて、大丈夫って聞いてくれたり、先に謝ってくれたりしたんだと思う。 ・もしかしたら、自分がジュースをかけていたかもしれない。相手が許してくれるとうれしいから、そうしたい。	・違いが行動面だけの場合は、「お姉さんはけい子と同じ考えだったのかな」と問い返し、行動の裏にある考えの違いに目をむけられるようにする。 ・けい子役とお姉さん役で役割演技をし、失敗した側の立場を体験することで、失敗したときの申し訳なさ、許してもらえた安堵感に気付かせたい。 【仲間との対話】
終末	3 学習を通して感じたことや今までの自分を振り返って考えたことを書く。 ・自分はいつも怒ってしまっただけ許すことがなかなかできないなと思った。失敗した時に怒らずに許してくれるとほっとするから、「いいよ」って言えるようにしたい。 ・いやなことをされたのに、許すって難しいなと思った。でも、自分も同じように傷つけることがあるから、許せるようになりたい。 ・前に友だちに嫌なことを言ってしまったけれど、あやまったら許してくれてうれしかった。謝ったり、許したりすると仲よくできるから、許せるようにしたい。	★学習を通して、相手の失敗を許す寛容のよさを感じられたか。 ★これからの生活の中で、仲間と仲よく過ごすために、困っている相手の気持ちを考えて許せるようにしたいという気持ちがもてたか。 【自分との対話】
	4 相手の気持ちを考えて、許すことができた事例を紹介する。	